

第2回府中市生物多様性地域戦略検討協議会

日時 平成26年9月30日(火) 午後2時～4時

場所 府中駅北第2庁舎3階会議室

出席者：石坂、大澤、堅山、紺野、佐藤、野口、野澤、春山、松原、山田、吉川委員 11名

欠席者：小池、新島委員 2名

傍聴者：1名

事務局：角倉公園緑地課長、加藤環境政策課長、高橋自然保護係長、尾池

高橋係長の司会で進行

事務局より会議の公開について説明

傍聴人の入室の了承を得て傍聴人入室

ここからは吉川会長の司会で進行

議題

1 第1回府中市生物多様性地域戦略検討協議会議事録の開示について

事務局より第1回府中市生物多様性地域戦略検討協議会議事録の開示について説明

各委員より議事録の修正依頼

<会長> 事務局は各委員からの修正、追記をお願いします。修正等は事務局に一任し、前回協議会の議事録の開示を承認していただけますか。

<委員各位>承認します。

2 府中市生物多様性地域戦略(案)について

事務局より資料1、資料2、資料3について説明

<会長> 事務局より説明がありましたが、作成する資料の構成について、全部で8頁でまとめるのですが、これについて意見等がありますか。

<委員> 前回の観察会で紹介された生物多様性地域戦略の事例では、流山市の戦略は硬く、柏市の戦略は柔らかかった印象があります。本日の資料は市民向けとしては、硬いのではないのでしょうか。

<会長> 具体的にどの部分が硬いと感じますか。

<委員> 全体的に硬いように感じます。

<委員> 7頁の「わたしたちにできること」は検討の余地があります。5、6頁の「取組みの紹介」では、みどりの回廊をどうしていくのかという記述があるとよいです。そうすると東芝府中事業所の取組みも活かすことができます。この協議会委員の意見がどのくらい反映されているか。

また、この戦略によって事業がどのくらい進んだのか検証し、わかるようにした方がよいです。国土交通省や市民団体などをつなぎ合わせる横断的な取組みがよいと思います。連携をとりながら互いに配慮した取組みがよいです。

- <会 長>協議会の意見がどこにどのくらい盛り込まれているかと、目標の設定と具体的な取組み事項、どの部課が主体となり、参加する部課はどこかを示せるとよいです。
- <事務局>「はじめの一步」という題名にした想いとしては、市民の方々は生物多様性という言葉に馴染みがないのではないかと考え、まずは「知ってもらう」ことを意図しつけました。事業として進めていく場合、検証は重要なので検討していきます。
- <事務局>目標を「見える化」で数値化することも検討しましたが、生物多様性を数値で表せるかという問題があります。この5年間は生物多様性の主流化に取組みたいと考えています。どれだけ広められたかを検証したいと思います。今回の生物多様性地域戦略は新しい計画をつくるのではなく、第6次府中市総合計画、第2次府中市環境基本計画、府中市緑の基本計画2009で生物多様性について触れられている事項を整理します。推進体制は、環境基本計画と一致するので、環境基本計画の推進体制を使おうと考えています。
- <会 長>地域戦略内にその旨を記載する必要がありますか。
- <事務局>保全の取組みについては環境基本計画の重点プロジェクトにも、生物多様性の項目があります。その中で、生物多様性地域戦略の策定について記載されており、それに基づいているので環境基本計画の推進体制を活用できます。
- <委 員>府中市のレッドデータリストの作成などできる取組みをいくつか挙げて取組み、5年後に検証すべだと思えます。また、庁内でのつながりがないと取組みが先送りになってしまいます。
- <委 員>取組みの実行がどれだけできるかが大切です。5年間で市民に知ってもらうには参加してもらうことも重要ではないでしょうか。アレチウリなどの駆除活動も参加者を公募しているが、まだまだ少ないです。これからは他の活動も公募で増やします。駆除活動から参加し、集団ねぐらの観察までできるとよいです。多磨霊園でも樹木が減っているので、市民公募をして植樹ができると思います。市民に生物多様性を知ってもらう機会を増やせると5年間の中で、どれだけ生物多様性が進んだのかわかると思います。
- <会 長>もう少し実行性のある取組み内容にするのと、庁内での連携については8頁の中にわかりやすい図で表現してほしいということです。事務局よろしくお願いします。
- <事務局>4頁の市の取組みに具体的な内容を入れたいので、本日ご意見を頂けたらと思います。8頁の推進体制は第2次府中市環境基本計画の体制で、進行管理は次回までに図を完成させます。
- <会 長>レッドリストの作成など具体的な取組みを委員の取組みアンケートから入れるとよいのではないのでしょうか。
- <委 員>「はじめの一步」なので市民のモチベーションが上がるようなものにしたいです。3頁の現状では、増加しているものと減少しているものが混在しており、市民には府中市の現状がピンとこないと思います。5、6頁の取組みの紹介では、活動が多くあるので取組みなくてもよいと思ってしまうのではないのでしょうか。今府中市にはみどりがあるが、「もっとこうしたい。生きものを増やしたい。」というパンフレットの方がストーリーがわかりやすいと思います。府中市と

リンクする書き方や、市民が誇りを持って取組めるようなものがよいです。

<委員>他の自治体でも生物多様性地域戦略の本編を8頁でまとめているところはないと思いますので、表現や盛り込む内容は工夫が必要かと思います。表紙のスペースを活用する方がよいと思います。府中市総合計画の副題では「みどり・文化・にぎわいのある洗練された都市を目指して」とみどりが文化などより先に来ています。このような位置づけにあるのはすばらしいと思います。府中市は地理的にも河川や崖線、台地など変化に富んでいるので、そこを表現して市民自らがすばらしいところに住んでいると気づき、そこを守るために取組めるものがよいと思います。

<委員>この地域戦略を手にとってほしいのは若い人なので、絵などを入れてわかりやすくしてはどうでしょうか。ターゲットを絞って作成してはどうでしょうか。見た人がやってみようとなる方がよいです。

<会長>視覚に訴えるものにする、表紙を活用すること、7頁の私たちにできることを具体的に示すということです。

<委員>柏市の地域戦略の概要版は市民向けでよいと思います。市民向けか、庁内向けかはっきりさせたほうがよいです。

<事務局>これまで行政が策定してきた計画などは、多くの場合数十頁あるものでした。これだと市民にとって読むのは大変だと思います。先ほどから硬いというご意見を頂いています。役所で作成すると従来の計画のような硬いものになってしまいますので、皆様にご指摘頂けたらと思います。完成後の配布先には小学校も含まれています。小学校高学年にも読んでもらえるようなものをつくりたいと考えています。

<委員>他の委員の意見と同様に目標と検証結果がわかりやすいものがよいと思います。3頁は小学校高学年には難しすぎだと思います。目標の「にぎわうまち」は不要だと思います。4頁の市の基本方針に「農地の保全と活用」や「地産地消」の取組みが入っていてとてもよいと思います。農業は人工的な畑をつくり、そこで野菜を育てるので生物多様性と相反することなのではないかと少し気になっていたのです。5、6頁の「取組みの紹介」は、文字は多いが視覚的に取組みがわかるのでよい。7頁の「私たちにできること」は府中のことなのか、日本全国のことなのかかわからないのでわかりやすくした方がよい。2頁の2はわかりやすく実感できるものがよいと思います。3の4つの危機、「自然に対する働きかけの縮小による危機」は府中市においては現実的ではない。

<委員>「にぎわい」とあると商店街や開発をイメージしてしまうのではないのでしょうか。

<事務局>「にぎわい」が人や街をイメージしてしまうというのはごもっともですが、説明には「人の生活」と「生きものの命」が豊かに共存した」とあります。当生活環境部でも人の生活と環境を担当しています。総合計画の都市像には「にぎわい」、環境基本計画の環境像には「いきいきする」というキーワードがあります。賛否両論あるかと思いますが、一つの例として「いきいきするまち」を表現したものです。

<会長>農業と生物多様性の関係としては、都市内で舗装されていない地面は貴重です。また、その土地ならではの作物も重要です。府中では少ないですが、水田の畦も植物の多様性が多いので、

畦がある地域では生物種数が多くなります。このようなことも市民の方に知っていただきたいです。

<委員>子どもたちにとっての「にぎわう」は人のにぎやかさをイメージしてしまいます。2頁の「生物多様性とは」はわかりやすいです。環境教育では3Rなどから持続可能性を考えるところまで来ています。先生にも生物多様性という言葉に馴染みがない方もいます。3頁の「今あることに参加しよう」から「どんなことができるか」につながるとよいです。すべてを網羅するよりポイントを絞ったほうが各学校でも使いやすいと思います。参加して実感するという行動目標がよいのではないのでしょうか。

<会長>2頁がわかりやすく書かれているので、3頁も同様にわかりやすくした方がよいです。

<委員>取組みの紹介は地図だけでは「行ってみよう」で終わってしまいます。府中市のどこで問題が起きているのかがわからないので、地図内に問題を記入するとよいと思います。

<委員>「取組みの紹介」にいつどんな活動をしているかを記載することはできないだろうか。具体的な内容を記し、参加できるようにした方がよいと思います。「私たちにできること」は、内容が類似している取組みはまとめてよいのではないのでしょうか。

<会長>構成に関しては、表紙をうまく活用することと、子どもにもわかるように絵や写真を入れることの2点です。

<委員>事業者の取組みについて地域戦略内で触れるとなると、小学生向けでは内容が合わなくなるのではないですか。

<会長>一般市民など広い方々に「できること」ということで、家、学校・職場、野外という項目を記載しています。

<事務局>市民にも、活動を既にされている方、お年寄り、子どもなど様々な方がいます。環境教育の教材ではなく生物多様性地域戦略なので、環境学習の一つのツールとして活用できるものと考えています。委員の意見にあったように、2頁はよいが、それ以降はわかりやすく修正する必要があります。小学校高学年未満の生徒には先生の指導の下、つなげて頂けたらと思います。事業者の取組みに関しましても、生物多様性地域戦略なので触れていきます。地域戦略を定めた以降の手法としては、事業者や子どもなどターゲット別にパンフレットの作成などは行政計画としてできます。

<委員>「わたしたちにできること」は各項目がバラバラな印象を受けるのでまとめるとよいです。私たちは3つの段階で進めており、「気づく」、「学ぶ」、「行動する」です。まずは観察する。次に学んでみる。最後にやってみようなどのストーリーがあるとよいです。また項目は身近な場でアクションにつながるようなものがよいと思います。

<会長>「気づく」から「行動する」まで各項目の順序を変更します。また、その取組みがなぜ生物多様性につながるのかを記載した方がよいです。細かい内容についてのご意見はメールで事務局までお願いします。

<委員>「市の取組み」には、動植物名の示された具体的なものなど様々なレベルの内容が混じっています。「ツバメの集団ねぐらを整備します」など後で評価でき、直接生物多様性に関わる項目を入れたほうがよいと思います。

- <委員>府中市内には、都立農業高校や東京農工大学があり、農地の保全・管理をしています。農地の保全も大きく取り上げ、重要であることをアピールした方がよいと思います。
- <委員>資料2の取組みの比較では、取組み分野ごとの評価なので、府中市全域で取組まれているかなど地域的な分布評価が必要だと思います。どの小学校で取組まれているか把握することも必要だと思います。
- <会長>アンケートに記入したときには気づかなかったが、遺伝資源に関することなどに該当する取組みなど、改めて気がついたことなどありましたら、適宜メールで事務局まで送ってください。
- <委員>江戸時代から府中で栽培されている真桑瓜は原種保存の取組みがされており、西府町の農家の方が栽培しています。のらぼう菜も栽培されています。調べてみると伝統や歴史のある野菜がもっとあるのではないのでしょうか。
- <委員>2頁はイラストを盛り込みながらわかりやすく表現するとよいと思います。3頁の「現状と課題」は、書いてあることから何を伝えたいのかがわかりません。5、6頁の「取組みの紹介」の地図では、自然植生の残る公園が少なく見えてしまいます。
- <事務局>本日は様々なご意見をいただきましてありがとうございます。次回の資料はなるべく早くご覧になって頂けるようにいたしますので、よろしくお願いいたします。
- <会長>委員の皆さんには、次回までに目標と「私たちにできること」の具体的な取組みで盛り込みたいものをメールで事務局まで送ってください。よろしくお願いいたします。

3 その他

事務局より次回日程について報告

日時：平成26年10月28日（火）午後2時～4時

会場：府中駅北第2庁舎3階会議室